別紙様式３（会派研修用）

会派の属さない議員研修報告書

令和２年１１月２７日報告

編纂種別	議　長	副議長	委員長	会派代表者		事務局長
議員研修（委員会・会派関係）						

回　覧	
報告者	（氏名）　宮崎　睦子　印
標　題	「自治体のSDGｓ活用戦略」　研修について
研修日時	自　令和　２年１１月１３日（金曜日）　１０時００分から 至　令和　２年１１月１３日（金曜日）　１３時００分まで
研修場所	自宅　（オンライン・リモート研修）
主　催	株式会社　地方議会総合研究所
参加者	宮崎　睦子

内　容

上記のとおり管外研修を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

○　研修の目的（計画・事前の資料等）

「なぜ自治体にとってSDGｓが大切なのか？」

1、地域が持続できるか、この10年が大きな分かれ目

2、SDGｓの基礎知識

3、国際目標のSDGｓは、なぜ自治体にとって大切？

4、17ゴールを理解すれば、地域を見る目が変わる

5、経済・社会・環境を総合的に考える

6、地域の多様な力を持ち寄る「コレクティブな協働」

7、SDGｓを活用し、持続可能な地域を実現する

以上の項目について学び、本町の施策に生かせるよう研鑽を積む。

○　研修参加者のレポート

参加者から提出された別紙レポート（報告書）を添付

○　研修報告書

この研修を受け、社会変化に伴い人の価値観が急激に変化することや、自治体にとってSDGｓの活用が重要であることの理解を深めることができた。具体的なSDGｓの活用によって、さらに人々の仲間づくりが進む。そして地域を良くしたいと思っている人が手を上げやすい環境につなげ、出た杭を皆で持ち上げられるような、自治体にはその仕組みづくりが求められる。現在、SDGｓに関心がある若い世代（未来を担う人材）を引き付ける意味でもSDGｓの活用が必要であると思う。

今後はさらに、目的も活動も、視点も、経験も、強みも、課題も違う人が集まり、一緒に考え、学び、話し合う場が必要であり、地域の活動・事業の資本となる「人を生かし、資本を増やす」取り組みを進めなければいけないと考える。

○　研修先での入手資料等

研修先での入手した資料を添付

別紙様式２（会派に属さない議員研修用）

研　修　報　告　書

令和　２年１１月２７日

（研修参加者）
（氏名）　宮崎　睦子

下記のとおり、研修に参加しましたので報告します。

記

１．研修先名	株式会社　地方議会総合研究所 地方議会議員セミナー
２．研修の目的	「なぜ自治体にとってSDGｓが大切なのか？」 １、地域が持続できるか、この10年が大きな分かれ目 ２、SDGｓの基礎知識 ３、国際目標のSDGｓは、なぜ自治体にとって大切？ ４、17ゴールを理解すれば、地域を見る目が変わる ５、経済・社会・環境を総合的に考える ６、地域の多様な力を持ち寄る「コレクティブな協働」 ７、SDGｓを活用し、持続可能な地域を実現するために 以上の項目について学び、本町の施策に生かせるよう研鑽を積む。
３．研修内容	１、現在、SDGｓとデジタルが大きな変化を起こしつつある。 Society4.0では第３次産業革命がおこり、自動化や情報化が進み、コンピュータやインターネットを活用することにより効率をあげる事や生産性をあげる事ができた。そして、Society5.0に進み、第４次産業革命により、デジタル革新がおこり、新しい価値観が生まれようとしている。デジタルが大きな変化を起こすと同時に、SDGｓも含めたサステナビリティ（持続可能性）に配慮した価値の変化も起きてくる。2020年代はサステナブル＆デジタルの変革の時代として、過去数十年の間で、最も変化しうる10年

	といえる。現に、本年はじめの docomo の調査によると、70 代の60％はスマートフォンを使用しているとのこと。社会のあり方が変わってきている。しかしながら、価値観の多様化により（従来の延長考える人と、未来からの発想を図る人との間に）、大きな分断が起きているともいえる。どちらに基軸をおくかで、10 年後は違ってくる。自治体としては、SDGｓを使ってストーリーのあるまちづくりが求められている。 2、SDGｓとは、は、2030 年まだに解決しなければならない課題を世界の有識者等から声を集め整理した、１７の持続可能な開発のための目標と、１５９のターゲットで構成される、「持続可能な開発目標」である。１７の開発目標は社会的課題、経済的課題、環境・自然課題に分類されるが、持続可能とは、単なる環境問題ではなく、経済と環境の共存である。すべての課題は繋がっている。 3、自治体にとっても、身近な関係であり、地域にも関係している課題である。例えば、４「質の高い教育をみんなに」では、ICT 教育・デジタル化が遅れていること。６「安全な水とトイレを世界中に」では、災害時に高層ビルのトイレが使えない事象がおこっている。そのために、新しい病気が出るのではないかという不安があるなど。１０「人や国の不平等をなくそう」では、外国人留学生や外交人労働者をどう考えるかなど。 4、１７の持続可能な開発目標と１６９の関連づけられたターゲットは、統合され不可分のものである。目標を個別に考えるのではなく、影響しあっていることを理解する。いわゆる、表面の問題の奥にある構造や、問題の背景にあるつながりを考えることが重要である。 5、SDGｓにより、今後は、誰一人取り残されない世界（全員平等という意味ではない。）を実現するための経済社会システムへとシフトしていく。例えば。サンフランシスコ市では、建築基準で、水飲み場のインフラ設置を義務づけている。これまで企業は、経済性からペットボトルを量産するのが普通であったが、環境のためには不便でも水稲を使うべきで、ペットボトルを買ってはいけない！という「普通」を変えることにより、発想を転換し、便利さからも経済面からも水筒を使いたい環境（経済社会システム）

	を整えている。重要なことは、未来の普通が実現するためには何が必要か考えることにより、起きてほしい未来の姿が見えてくる。 6、役所が決めたことをみんなにやってもらうという時代から、地域の多様な力を持ち寄るコレクティブ（集合的）な協働が求められる。自治体は計画づくりから住民と一緒に考え、実現したい未来が来るように、地域全体で解決したい課題を分かち合い、目的も、活動も、視点も、経験も、強みも、課題も違う人が集まって一緒に悩むことが重要であり、一緒に考える場が必要である。共に学び、互いから学びあいながら創りだしていくサイクルの構築が求められている。 7、①SDGｓと６つの資本（財務資本、製造資本、人的資本、知的資本、社会・関係資本、自然資本）の眼で、地域にあるものを見直す。 ②地域にあるものの活かし方を考える。 ③活かし方を継続する活動を行政・住民の協働で立ち上げる。 ④活動の結果が、地域の資本にどう影響を与えるか考える。 ⑤どうすれば地域の資本が総合的に豊かになっていけるのか、探求し続ける。
４．所　　感（個人的な感想・本町への応用等）	この研修を受け、社会変化に伴い人の価値観が急激に変化することや、自治体にとってSDGｓの活用が重要であることの理解を深めることができた。具体的なSDGｓの活用によって、さらに人々の仲間づくりが進む。そして地域を良くしたいと思っている人が手を上げやすい環境につなげ、出た杭を皆で持ち上げられるような、自治体にはその仕組みづくりが求められている。現在、SDGｓに関心がある若い世代（未来を担う人材）を引き付ける意味でもSDGｓの活用が必要であると思う。 今後はさらに、目的も活動も、視点も、経験も、強みも、課題も違う人が集まり、一緒に考え、学び、話し合う場が必要であり、地域の活動・事業の資本となる「人を生かし、資本を増やす」取り組みを進めなければいけないと考える。 これからの１０年、SDGｓの取り組みと、デジタルトランスフォーメーションにより社会が大きく変革する。より良い未来を創るため、何より人を大切にし、応援体制の構築を図りたい。特に、企業、行政、地域住民、NPO等の団体が、お互い話しあい、解決につなげる場づくりが急務であると感じた。